

8部

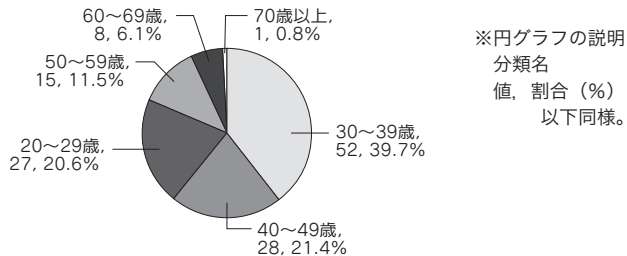
3月卒業者 アンケート結果

平成25年3月に本学通信教育部を卒業された方を対象に、アンケート調査を実施しました。4月11日現在、131名の方よりアンケートのご回答をいただきました。本調査の集計結果は、下記のとおりです。今後の通信教育部での学習に、ご活用いただけたらと思います。

1. アンケートの概要

アンケート回収状況は、社会福祉学科が95名、福祉心理学科が35名、社会教育学科が1名でした。

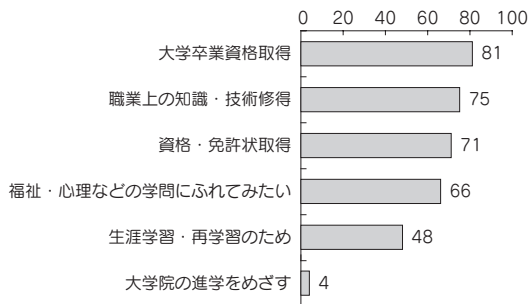
本アンケートにご協力いただいた方の入学月は、4月入学が123名、10月入学が8名であり、入学コースは、1年次編入が28名、2年次編入が5名、3年次編入が98名でした。年齢別構成は、図1のとおりです。



【図1】年齢別卒業者 N=131

2. 入学動機

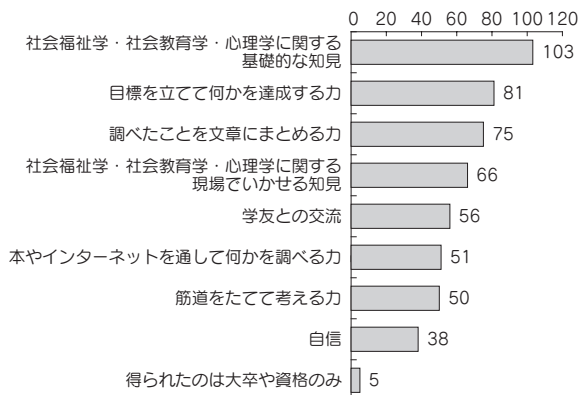
本学への入学動機（複数回答）は、図2のとおりです。



【図2】入学動機 N=345（複数回答）

3. 学習を通して得たことおよび今後の資格等の活用について

通信教育部での学習を通し、何を得たか（複数回答）については、図3のとおりで、「社会福祉学・社会福祉学・心理学に関する基礎的な知見」「目標を立てて何かを達成する力」「調べたことを文章にまとめる力」「現場でいかせる知見」などが多くなっています。



【図3】 本学での学習を通じて何を得たか N=525（複数回答）

通信教育部で学んだことで役立てていること、今後どのようにいかに活かすかについての具体的なご意見は、下記のとおりです。

【今後に活かしたいこと】

- ・人と資源を結びつける仕事に活かしたい
- ・社会保障制度からもれている方々のための活動をしていきたい
- ・転職するので、その仕事（就労支援）に活かしたいと考えている
- ・学習で得た知識を、自分だけではなく、部署内や他部署にも広めて、業務に役立てたい
- ・資格・学びを活かし、福祉の現場で働きたい
- ・入学前に東日本大震災で「全壊」の被害を受け、相当悩んだ末に進めた。全国の多くの皆様に感謝しながら、今後は自分にできるボランティア活動をしていきたい
- ・すでに定年を迎えているので、今後、社会貢献やボランティア活動の中で社会福祉に関わっていききたいと考えている

【役立てていること】

- ・基本的な聴く姿勢をはじめとする対人関係のスキルが向上したと感じている
- ・様々なケースにも冷静に対応できるようになった

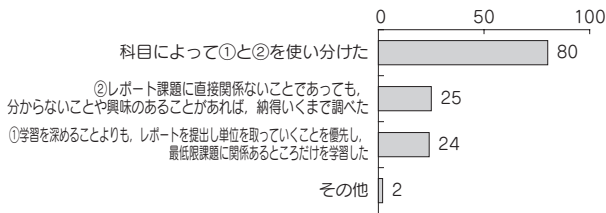
- ・現場での利用者さんへの関わり方に役立っている
- ・社会問題を受け止める視点が広くなり、問題の本質や連鎖性を感じられるようになった
- ・ソーシャルワークの構成要素は、普段の生活（妻に対する接し方および子どもとの接し方）に生かされている。もちろん現場での人間関係も同様である
- ・介護職なので利用者様との関わりの中で権利擁護やストレングスを意識した対応をしている
- ・自分の周りにいる人に対しても、会話する中でバイスティックの7原則を意識して関わるようにしている

4. 学習方法および学習頻度

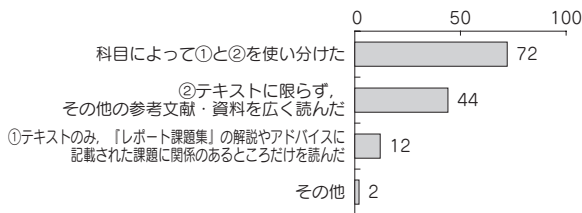
学習に対していかに取り組んだかについては、図4のとおり「科目により使い分けた」が多い結果です。

テキストをいかに読んだかについても、図5のとおり「テキストのみ・課題に関係のあるところのみ読んだ」と「テキストに限らず、その他の参考文献・資料を広く読んだ」を使い分けた方が多いようです。

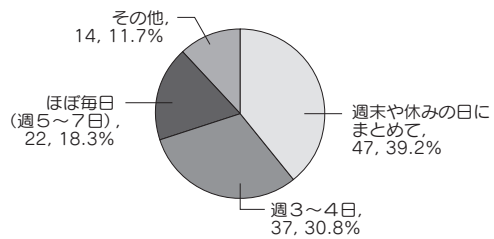
学習頻度は、図6のとおり「週3～4日」「週末や休みの日にまとめて行う」が多くなっています。



【図4】 どのように学習に取り組んだか N=131



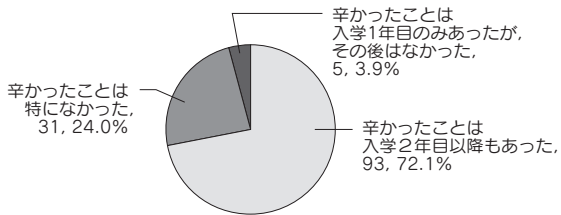
【図5】 テキストをどのように読んだか N=130 ※無回答1



【図6】学習の頻度 N=120 ※無回答11

5. 具体的な学習状況

学習していて辛かったことはあったかについては、図7のとおり「辛かったことは入学2年目以降もあった」が多く、皆さん辛いことを乗り越えて卒業に至られている様子が伺えます。



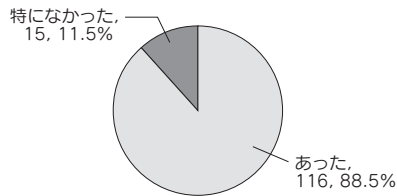
【図7】学んでいて辛かったことはあったか N=129 ※無回答2

辛かったことへの具体的な対処方法は、下記のとおりです。

- ・計画を立て直して勉強した
- ・一人で苦しんでいたが、時が解決してくれた
- ・不明点は先生に質問したり、レポート課題集に載っている参考文献を読む
- ・一緒に学んでいた友人に触発された
- ・期限の前日の12時(夜の)迄に集配センターに持ち込めば、次の日の期限内間に合うことがわかり、ギリギリまで作成することができた。前のレポートを違う視点で考えるようにした。また、再提出の可能性も考えて、構成を練るようにしていたため、早めに対処できた
- ・家族等が休みの日などに、まとめて学習した(小さな子どもがいるので、テキストを開くことができなかった)。再提出になったレポートは、コメントに沿ってすぐ書けそうである時は取り組んだが、他の科目を学習し、自己の知識等を広げてから取り組んだ科目もあり、あらたな知見も書くことができた

- ・再提出になってもめげることなく書き続けることが重要だと思う。『レポート課題集』を読んでも難しいと感じる科目は、スクーリングを受けて、その後レポートを書くことよと思う

学習していて楽しかったことについては、図8のとおり「楽しかったことがあった」が9割弱でした。



【図8】 学習していて楽しかったことはあったか N=131

具体的内容としては、下記のとおりです。

- ・現場ですぐに応用できた時
- ・知らない制度が多く、新たに知識が増えたこと
- ・他の県の人やいろんな職種の方と交流できた。自分の知識が確実に増えていることがわかった
- ・他の学生との交流
- ・レポートへの先生方のコメントに元気づけられ、返却が楽しみであった
- ・心に響く授業を受けることができた時には、本当に嬉しく学習意欲をかきたてられました
- ・自分なりに納得のいくレポートを作成することができ、担当教員から評価されたときは、無上の喜びであった

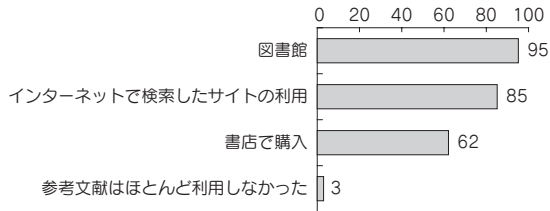
6. レポート学習について

テキスト以外の参考文献（資料）の入手方法（複数回答）については、図9のとおりで、「図書館」「インターネットで検索したサイトの利用」「書店で購入」の順です。レポート学習についての在学生へのアドバイスは下記のとおりです。

- ・問われていることについて調べ、自分の言葉でまとめる
- ・レポート課題集の解説・アドバイスを深く読みこむ（先生が求めている内容は何か、必ず盛り込むべきポイントが記載されている）
- ・参考文献や白書等を利用する
- ・スクーリングを受講し、その科目で学ぶことの大体のイメージをつかみ、レ

ポート作成を行った。受講生同士の意見交換からも学習に役立つヒントを得られるため、スクーリングの受講をお勧めしたい

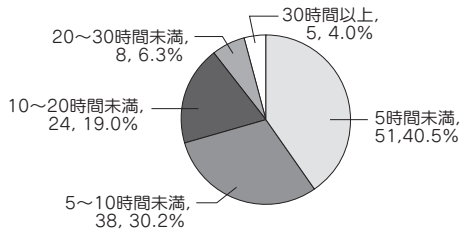
- ・内容は何でもいいので、毎日コツコツ書く
- ・講演会へ参加したり、新聞の切り抜きをしたり、職場の回覧・情報などにアンテナを張りながら作成していた
- ・作成時にクラシックCDを聴きながら集中して書いていた



【図9】参考文献の入手方法 N=245（複数回答）

7. 科目修了試験について

科目修了試験準備（1科目）に要した平均延べ時間数は、図10のとおりです。



【図10】科目修了試験準備（1科目分）に要した平均延べ時間数

N=126 ※無回答5

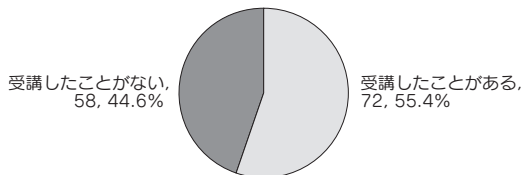
具体的な試験勉強の方法は、下記のとおりです。

- ・レポート作成のメモを読む。『レポート課題集』の内容について、近いところを教科書で読む（何回か科目修了試験を受けると、どのような問題が出題されるか予測できる。全科目の問題が1つの冊子に書いてあるため）
- ・これまで出題された科目修了試験の問題を解いた
- ・書いてまとめた
- ・レポートを読み返す。レポートをもう少し短めに作り直し、ポイントは赤字で書いて文章を隠してポイントを思い出せるように勉強した
- ・日々、1日1回は本を読み、これを繰り返した

- ・試験4～5日前から、レポート作成に使用したノートを読み返すこと、過去問を見て、レポートを作成して学習した
- ・友人たちと情報交換し、出題されそうなポイントを押さえた。このポイントに沿って自分で整理し、その内容を毎日読んでいた
- ・過去に出題された問題をすべてまとめ、自分なりに文章化して何度も読み返しながらか試験に臨んだ
- ・科目修了試験に関しては、内容を把握していれば、文章が生まれてくる。作成したレポートを読み返すことも大切であるが、内容を学べるのが大切であると思う

8. オンデマンド・スクーリングについて

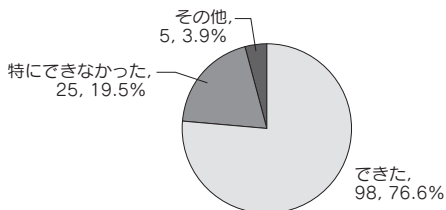
オンデマンド・スクーリングについては、「受講したことがある」が「受講したことがない」をはじめて上回りました（図11参照）。



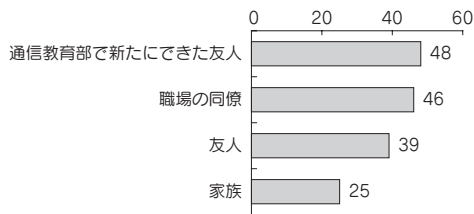
【図11】 オンデマンドスクーリングの受講の有無 N=130 ※無回答1

9. 学習仲間および協力者について

通信教育部で共に学ぶ学習仲間については図12、学習の協力者については図13となっています。家族や職場の方々にも協力してもらえた方が多いですが、協力してもらえなかったという回答もありました。



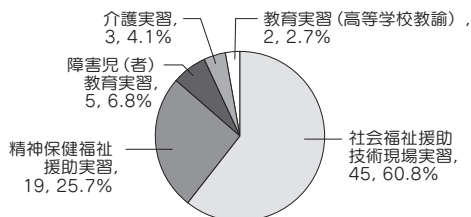
【図12】 学習仲間はできたか N=128 ※無回答3



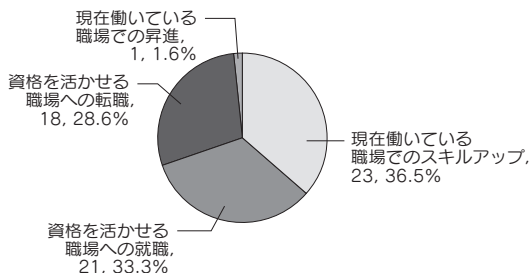
【図13】学習を進める上での理解者・協力者 N=158 (複数回答)

10. 実習について

回答者のうち実習を行った方の実習種別については、図14のとおりです。実習科目を履修した目的は、図15のとおり「職場でのスキルアップ」「資格を活かせる職場への就職・転職」が多いようです。



【図14】本学で行った実習 N=74



【図15】実習を履修した動機 N=63 ※無回答11

実習に関してのアドバイスは、下記のとおりです。

- ・受身の实習にならないようにしてほしい
- ・不安なことやわからないことなどは積極的に質問し、是非とも実り多い実習にしたい

- ・希望通りの実習先でなくとも確実に福祉施設であり、福祉の全体を現状の勉強になるかと思う。そこで働く人がいて、そこを利用する人がいること、それが現実。あくまでも実習生であることを自覚し、身体に留意しながら乗り切っていたいただきたいと思う
- ・実習の1～2年前から近くの事業所を見学に行ったり、行事に訪問してみたりして、自分の学びたいことを明確にしつつ、それを学べる実習先であるかどうかを吟味することも必要ではないか
- ・実習期間の休暇取得は前年度の早いうちから勤務先へ相談することをおすすめする
- ・実習先は本当に「縁」だと思う。行ってみて「こんなはずじゃなかった」と思うこともあり、嬉しい瞬間もある。自分がどういった分野に進みたいかによって実習（希望）先を決めていいし、逆に社会福祉士の業務の広さからいえば、今まで全く関わりのない分野にあえて実習という大義名分を得て飛び込んでみるのも勉強になるのではないか
- ・実習前にレポートは書き終わり、実習終了後にはすぐ国家試験の勉強に専念できる環境を整えておけるよう、計画して勉強を進めていけるといいと思います

11. 在学生へのメッセージ（学習全般）

- ・人は努力した分だけ大きな成果を得ることできるため、卒業のためのテクニックはない。入学時の思いを貫き、無事卒業し、それぞれの目標に羽ばたいて欲しい
- ・必ず悩む時期があるため、気分転換や息抜きをして、ストレスをためないようにすることが大事であると思う
- ・スクーリングに参加することで様々な人と知り合えたこと、勉強するにあたり色々なことを考えたことなど、資格を取得するという目標以外にも得られることが沢山あったような気がする
- ・人に対する視点が変わったことで、日々関わる人に対しても多面的な見方、捉え方ができるようになった。毎日のあたりまえのことから「？」と感じることを調べる技術や方法を得ることができた

◆まだまだ多くのメッセージをいただいています。引き続きさまざまな機会にご紹介していきたいと思えます。本アンケートにご協力いただきました卒業生の皆様に御礼を申し上げますとともに、ますますのご活躍を祈念いたします。